

第6回本明川ダム建設事業 環境影響評価技術検討委員会 議事要旨

日 時：平成21年3月19日（木）13:30～17:00

場 所：L&L ホテルセンリュウ 2F 仙竜の間（諫早市）

主な意見

○ 前回の議事要旨について

- ・ ゴキズル→ゴキヅルに修正すること。

○ 動物（河川域）、生態系（河川域）についての予測、保全措置の検討結果

【動物】

- ・ 本委員会が予測・評価を行っているわけではなく、事業者が予測・評価を行い、委員に指導・助言を得るものであるため内容を修正すること。
- ・ 流況の変化の予測結果については、動物の評価であることがわかるように記載すること。
- ・ 土砂供給の変化において、湯野尾川合流後～鉄道橋に生息する動物への影響の表現については、「概ね維持される」という表現を修正すること。
- ・ 魚類の環境保全措置の効果については、「可能性が」を「可能性は」に修正すること。

【生態系】

- ・ 魚の代表種としては、タカハヤよりオイカワの方がよい。それに伴い底生動物も変更すること。
- ・ カワセミの生態で採食については、本明川で調査した結果を記載すること。
- ・ サシバの各つがいには寿命があると思うので、本明川周辺に生息する個体群としては、影響ないとするべき。
- ・ サーチャージという言葉は洪水時最高水位とすること。
- ・ 魚類については、ブルーギル、ブラックバス等の外来種が放流され、生態系の攪乱を起こすため、立て札を付けるなどの対策が必要。
- ・ 凡例の意味がわかりづらい、堆砂がどのように予測されたのかの根拠がわかりにくい。
- ・ 事後調査について、「実施する条件ではないが」と文章を修正すること。

○ 前回の指摘事項について

【水質】

- ・ 水質の予測では、平水時と出水時の評価が重要となってくるが、L-Q式は幅があり平均的な予測であり、算術として課題は残っているためしっかりとした条件を提示すること。

【全体】

- ・ 本明川の事業の必要性、今回のアセスについては、住民への説明や情報発信を十分に実施すること。